

## 第 61 回全国会員大会北九州大会 開催理念

世界最先端の環境技術で日本をリードし、いまや「環境モデル都市」として評されるようになった北九州。その歴史を紐解くと、1901年の官営八幡製鐵所の操業開始が大きな転換点だったことがわかります。重化学工業の中心として、日本の近代化や戦後復興を支えてきた輝かしい歴史は、反面、甚大な公害や産業構造の転換による経済の衰退など、困難を克服する歴史でもありました。これら北九州の歴史を築いてきた先人たちによって培われつつ、原動力ともなった精神性こそ、「身を賭して決して諦めることなく社会全体のために弛まなく行動する気概」、すなわち「公(こう)の精神」でした。そして今、「公の精神」溢れる北九州では、産学官民一体となって、「世界の環境首都」という志高き地域ビジョンの実現に向けて邁進しております。

全国会員大会北九州大会では、全国各地で様々な運動を展開してきたJAYCEEが一堂に会し、市民の心に「公の精神」が溢れる北九州に触れる機会を得ます。それは、地域のビジョンと精神性を活かしたまちづくりを行うことで、様々な困難の中で一度は失いかけた自信と誇りを取り戻した運動の原動力を体感する契機となり、ひいては参加者が自らの地域の精神性や地域の誇り、目指すべきビジョンを再確認するきっかけともなります。その気づきをそれぞれの地域へ持ち帰り、地域ビジョン実現に向けた運動を全国で展開したときこそ、日本の未来が切り拓かれ、サステナブルな地域が実現されるのです。

第61回全国会員大会北九州大会は、連綿と受け継がれてきた青年会議所運動の更なる高みを目指し、「公の精神」溢れる北九州の地から、4度目の奇跡を実現すべく、全国のJAYCEEが、創始の気概を胸に、日本のプリンシプルを呼び覚ます大会にします。

## 第62回全国大会奈良大会 開催理念

「倭(やまと)は國のまほろば たたなづく青垣 山隠(やまこも)れる 倭(やまと)しうるはし」  
奈良は古来より、「真に秀でた場所」すなわち、まほろばと呼ばれ、1300年の永きに亘り、神仏と自然と人とが共生することで、目に見えない絶対的な存在に対する畏敬の心が育まれ、万物に対する感謝の念が醸成され、以来、日本人の伝統的精神性として、今もなお受け継がれています。そして、奈良に訪れる人々を敬虔な心持ちや安らぎ、感謝の気持ちで包み込み、全てとの「つながり」を実感できる地域として存在してきました。公の意識が希薄になり、閉塞感が漂う今だからこそ、日本人の精神性が宿る奈良の地に、すべてのJAYCEEが集わなければならないのです。

志高き会員が奈良の地に集い、大会を通して日本人の誇るべき精神を呼び覚ますことで、人々の燈火となる気概と覚悟をもつ機会を得ます。そして、大会に触れるすべての人々がつながりを感じ、地域に対する誇りと郷土愛を深める契機となり、この志を各地に持ち帰ることにより全国のあまねく地域をさらに輝かせ地域の再生を実現します。

第62回全国大会奈良大会では、畏敬の心と感謝の念が溢れる奈良の地から、新しい「震災後」時代へと、気概と覚悟を胸に決断できる「勇壮なる日本」を実現する大会とします。

## 第 63 回全国大会松山大会 開催理念

混沌とした現代社会を光り輝く未来に導くには、行動的で意気あふれる人財が育ち、活力に満ちあふれた地域をつくり上げていかなければなりません。そのためには、私たち国民一人ひとりが常により良い変化を生み出すために学び、率先して行動し、社会にインパクトを与える本気の市民意識変革運動を展開していくことが必要です。今日の礎を築いてこられた先達の価値観や歴史、伝統、文化に誇りを抱き、日本の未来に希望を持ち、人と人、人と地域が共鳴する運動を力強く推進していくためにも、「ことばのちから」あふれる松山の地で第 63 回全国大会松山大会を開催します。

2014 年、日本の矜持を取り戻すべく、全国各地で様々な運動を展開してきた J A Y C E E が、松山大会を通じて人の意識を変える「ことばのちから」を体感します。そして、先達から現代に向けた誇りあることば、現代から次世代に向けた未来を切り拓くことばを自覚し、共有することで、どんな困難にも立ち向かっていく気概と、積極果敢に行動できるたくましさが育まれます。その気づきをそれぞれの地域へ持ち帰り、次代に繋ぐ地域ビジョン実現に向けた運動を全国で展開したときこそ、日本の矜持を取り戻し、「たくましい国」日本が実現されます。

「ことばのちから」あふれる松山大会を通して、過去と未来のつながりを自覚します。そして、自信と誇りを胸に、光り輝く未来に向けて更なる運動を力強く推進することで、意気あふれ、活気に満ちあふれた「たくましい国」日本へと導く大会とします。

※「ことばのちから」とは、前向きにたくましく生きようとする人々に大きな影響を与えるちからを示しています。人の意識を変えることばには大きなちからがあり、希望と勇気、自信と誇り、信念を与え自己を啓発し、人生を力強く前向きにたくましく前進できるちからを意味します。

## 参考資料 10 第 61 回～第 64 回全国大会開催理念

### 公益社団法人日本青年会議所2015年度 第64回全国大会東北八戸大会 開催理念(案)

三陸復興国立公園に指定されている種差海岸をはじめ美しく豊かな自然に恵まれた八戸は、海から拓け、漁業や商業の重要な拠点として発展し続けています。しかし、東日本大震災の発災により東北地方はその海から甚大な被害を受けました。まちの人々は絶望感と虚無感に打ちひしがれながらも、互いに力を合わせることでこの困難を乗り越え、今日まで復興を成し遂げたのです。震災から力強く歩みを進めてきた原動力は、「まちはそこに住む人の意識以上には良くならない」という理念のもと、40年にわたり「ラブはちのへ」運動を推進してきた中で醸成された郷土愛に他なりません。そして、愛するまちのために人と人とながつながり、自ら率先して取り組む「市民先導のまちづくり」こそ、八戸に根差した「底知れぬ力」なのです。私たちは今、復興に力を注いだ東北の同志と共に、第64回全国大会東北八戸大会を開催します。

八戸の地に集うJAYCEEが、幾多の困難を乗り越え躍動する八戸の「底知れぬ力」を体感し、日本青年会議所の一年間の集大成としての運動と共に、「市民先導のまちづくり」を全国各地に伝播させます。

第64回全国大会東北八戸大会は、住まう故郷を愛し、未来を生きる人のために美しく先駆けるJAYCEEが、未来へ向けて夢や希望を抱くことができる自立自活した地域へ再興し日本再興へと導く大会とします。